

佐々木達行 WEB 創作陶芸講座

—— 陶芸（焼き物の）表現をととした造形発想の方法 ——



はじめに

本講座は創作的な陶芸における**基礎的、基本的な内容を、できるだけシンプルな表現例として示して**いきます。

それらは小学校や中学校の焼き物の授業の題材、あるいは個人の制作素材などに使っていたことを考えています。本講座を、さまざまに活用していただければ幸いです。

また、本講座のもうひとつの特徴として、陶芸表現をととした「**造形発想**」の方法を示していくことがあります。陶芸表現はその複雑な表現制作過程から考えるとさまざまな視点からの

造形発想が可能となります。

それらは、表現材料としての粘土の色や形、材質など造形要素からの発想、成形技法からの発想、表現対象や主題からの発想などです。これらの「造形発想」やその方法などを整理（各講座の初めのページに「表現内容の要素と発想の視点」として記述）しながら、創作的な陶芸の表現内容を紹介していきます。

制作協力 創作焼き物研究会

朝重久美子 飯塚雅子 山田秀子 勝見友美 舟橋舞美
柿沼美智子 中出律子 太田弘美 荒田真代 青沼貞男

1 「造形発想」の方法と「表現・鑑賞内容」の5つの要素

造形表現、あるいは造形教育においてよく使われる文言に「発想」、「発想力」、「造形発想」、「造形発想の方法」があります。

しかし、これら「発想」、「発想力」、「造形発想」、「造形発想の方法」とはどのようなことなのか、その意味や内容についての解釈は曖昧で、ほとんど明確に説明されていません。それらは各自の解釈に任されているような状況です。そこで、この講座ではまず「**造形発想**」の意味や**内容、方法等を整理**し、しっかりととらえておくことにします。

「造形発想」は、造形活動のすべての「**表現・鑑賞内容**」に関わって可能であると考えられます。「**表現・鑑賞内容**」の**要素、つまり「何を、何で、どのように表現する」**は具体的に、以下

の**5つの要素**に整理することができます。

- ア) 表現対象／主題（何を表現する）
- イ) 表現材料／素材／造形要素（何で表現する）
- ウ) 表現形式（どのように表現する）
- エ) 表現様式（どのように表現する）
- オ) 表現技法／用具／知識（どのように表現する）

これら「**表現・鑑賞内容**」の5つの要素、すべてに関わって、あるいはそれぞれの要素を契機として造形的な発想を行うことが可能で、そこからさまざまな造形表現活動を広げていくことができるのです。

2 陶芸表現と「造形発想」の方法

陶芸表現をとおした「造形発想」の方法を考えるには、陶芸表現の「**表現・鑑賞内容**」、つまり「何を、何で、どのように表現する」をとらえていくこととなります。

まず、陶芸表現に必須の**表現材料、粘土類の特性を色や形、材質等の造形要素**からとらえた造形発想の方法が考えられます。

また、表現材料としての粘土の特性は、**表現技法／成形技法**と組み合わせて考えることも必要になります。

例えば、板状の粘土からの造形発想は、板づくりの成形技法がともなってはじめて意味をもつからです。

この講座では陶芸表現の「**表現・鑑賞内容**」の5つの要素とその組み合わせの視点から「造形発想」の方法を整理し、創作陶芸における表現内容を示していきます。

以下は、そのいくつかの例です。

○表現技法／成形技法の視点

- ・手びねりの技法から
- ・板づくりの技法から
- ・ひもづくり（輪積み）の技法から
- ・糸切りの技法から

○表現材料／粘土の造形要素の視点

- ・塊状の粘土／形から
- ・板状の粘土／形から
- ・糸状の粘土／形から
- ・不定形の形から
- ・粘土の色の違いから

○対象・主題の視点

- ・造形要素と造形イメージから
- ・季節、言語・物語と造形イメージから

○その他

関連データ

平面表現における造形発想の方法については下記、佐々木達行の論文資料がありますので活用ください。

- 千葉大学教育学研究紀要第 61 巻（平成 25 年 3 月 1 日発行） 造形要素から捉えた造形発

想の方法 - 「造形的なものの見方や考え方」, 平面表現としての一考察 -

(フルテキストへのリンク)

http://mitizane.ll.chiba-u.jp/metadb/up/AA11868267/13482084_61_327.pdf

著者紹介

佐々木 達行 (ささき たつゆき)

横浜国立大学教育学部美術科卒業。筑波大学附属小学校教員、宮崎大学教育文化学部教授、千葉大学教育学部教授を歴任。

現在 東京福祉大学非常勤講師、創作陶芸研究会役員、開隆堂図画工作科教科書著作者代表。1990 年度／文部省図画工作科指導資料作成協力者、2002～4 年度／国立教育政策研究、評価規準、評価方法等の研究開発協力者、2005～10 年度／国立教育政策研究、研究指定校に係わる企画委員会の協力者。

(専門) 造形教育学 (図画工作科・美術科教育) / 工芸 (陶芸) 教育 / 陶芸作家

(主な著書／編著書／論文)

- 『造形を通じた美術教育の課題とカリキュラム編成の方法、及び編成モデルの研究開発』2008 年 (学術科学基盤研究 C)
 - 『造形教育における授業デザインと授業分析 - 授業構造とその構成要素から捉えた授業構成論』2011 年 (東洋館出版社)
 - 「造形要素から捉えた造形発想の方法 - 『造形的なものの見方や考え方』, 平面表現としての一考察 -」2013 年 (千葉大学教育学研究紀要第 61 巻)
 - 『造形教育における授業の課題・目標と評価 - 図画工作科・美術科教育の理念と授業デザイン』2013 年 (開隆堂出版)
- その他、著書、論文多数。

著者陶芸作品紹介



「三島熊谷草文壺」
(伝統工芸新作展)



「三島搔き落とし敦盛草文鉢」

「三島敦盛草文壺」
(伝統工芸新作展)



「彫り三島敦盛草文深鉢」



「創作埴輪」